



「沈みがちな心が救われました」、心のこもったお礼状

「薬をお渡しするだけではなく、その方の生活状況や効果をみながら支援するのも大切な役割です」と教えてくれたのは、右京区にあるゆう薬局の薬剤師Eさん。

処方薬の内容と飲み方の意義を説明する。飲み忘れが心配な方には袋の色分けや、印刷などを工夫して対処。副作用や薬の効き目を確認する。これらも薬剤師の務めです。「患者さんの不安や変化にいち早く対応できるのは、地域の中で気軽に相談できる事ができる保険薬局だからこそ。身近な医療機関として力になれるのがうれしいですね」。

Eさんが薬剤師になったのは、認知症の祖母の施設入所がきっかけでした。悲歎する祖母のお見舞いに行き、「私はいつもおばあちゃんを見ているよ」と語りかけていたEさん。そうするうちに祖母の表情は和らぎ、状態も落ち着きました。この体験からEさんは、人との信頼関係が持つ大きな力を学びました。

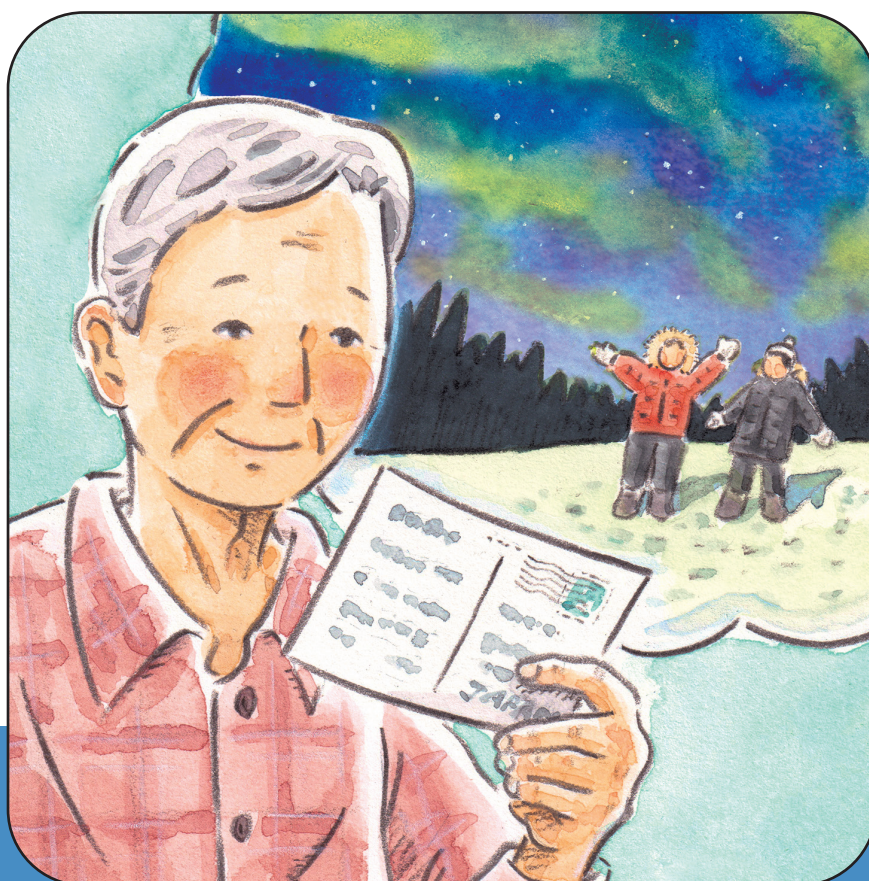
そんなEさんは80代の患者の石川さん（仮）と印象的なやりとりがありました。以

前よりゆう薬局を利用されている石川さん。最近表情が硬く気にかかっていました。次に石川さんが訪れたとき、「どうされていましたか？」とそつと声をかけました。「実は、先日家内を亡くしまして……」。

Eさんと話すうちに表情がほぐれていく石川さん。話が弾んで絵が好きという共通点がわかり、石川さんは自作の絵ハガキを進呈。そのお礼にEさんは母と旅行で訪れたフィンランドから絵ハガキを送りました。

ある日、Eさんに石川さんから封書が届きました。開いてみると、挿絵とともに「フィンランドからの便りに、沈みがちな心が救われました。私の宝物です」との、心のこもったお礼状だったのです。「私も、石川さんの言葉が嬉しくて涙が出ました。信頼を感じました」とEさんは声を震わせます。

ゆう薬局は在宅ケアにも力を入れています。訪問は患者さんとの信頼関係があって成り立つケア。「安心して自宅で過ごしてほしい」との熱い思いを胸に、ゆう薬局の薬剤師は今日も患者さんを見守っています。



豆知識

在宅医療と薬局・薬剤師

在宅支援が必要な方に向け、薬剤師がご自宅へ伺う機会が増加中。医師の指示の元で、その方の在宅環境に応じた服薬支援を行っています。

ゆう薬局グループ本部・宇野薬局

☎075-771-1690(本部)
📍京都市左京区浄土寺下馬場町106

🚶🏻‍♂️ 徒歩1分
🚌 徒歩5分
🚗 徒歩10分
🚲 徒歩15分
🚶🏻‍♀️ 徒歩20分
🚶🏻‍♂️ 徒歩25分
🚶🏻‍♀️ 徒歩30分
🚶🏻‍♂️ 徒歩35分
🚶🏻‍♀️ 徒歩40分
🚶🏻‍♂️ 徒歩45分
🚶🏻‍♀️ 徒歩50分
🚶🏻‍♂️ 徒歩55分
🚶🏻‍♀️ 徒歩60分
🚶🏻‍♂️ 徒歩65分
🚶🏻‍♀️ 徒歩70分
🚶🏻‍♂️ 徒歩75分
🚶🏻‍♀️ 徒歩80分
🚶🏻‍♂️ 徒歩85分
🚶🏻‍♀️ 徒歩90分
🚶🏻‍♂️ 徒歩95分
🚶🏻‍♀️ 徒歩100分

KBSラジオ
“サウンド版ハンケイ500m”
の番組内にて、ゆう薬局の
ラジオドラマを放送中!

毎週土曜17時~18時!